

意見交換

委員

- ・全体的に山の博覧会(仮称)(以下、山博)のイメージが大きく感じられる基本構想になっているように感じた。例えば、開催趣旨の順番は全国都市緑化フェア(以下、緑化フェア)を先にしてその後に山博の流れが良いと思う。主体は緑化フェアで、そのなかで佐賀県らしさを出すために山博と同時開催するということは大変よいことと思う。
- ・理念は佐賀の山の価値に特化したものになっているが、山・川・海・緑の価値を人によってつなぐような表現が良いと思う。
- ・会場について、唐津のロケーション(名護屋城、虹ノ松原等)は他にないものだと思う。唐津のみならず、各市町に協力を依頼し、佐賀県内のあらゆるところでサブ会場や協力会場等を設けて全県的に開催できるようにしてほしい。
- ・スケジュールについて、令和10年の春となっているが、令和10年度の最後の2、3月から令和11年度の4、5月までと年度をまたぐ事例もある。岐阜でいま都市緑化フェアが開催されている。佐賀も緑化フェアに特化した整備だけでなく、それぞれの公園の特長を再評価するための公園整備を実施し、その先に緑化フェアの花植え活動等があるように思う。令和11年の3月から年度をまたぐ開催が良いのではないかと個人的には思う。

座長

- ・山博との兼ね合いは大事だが、表現を事務局でご検討いただければ。
- ・各地域の連携として、サブ会場や協力会場みたいなものがあつた方が良いのではないか。どうやっていくのかは基本計画の中で整理していけばいいのかなど。例えば、各市町で整備してもらうのではなく、トレーラーを緑化してそれが各会場をめぐるキャラバンみたいなことをしても良い。
- ・佐賀県は海があり、街があり、田園があり、山がある。こういった県は意外とない。
- ・岐阜では里山公園などが Park-PFI で上手に公園が整備されている。佐賀県も吉野ヶ里歴史公園では Park-PFI をやっている。そういった手法を取り込むことが次のレガシーにつながる。
- ・スケジュールの年度縛りはあるのか。

事務局

- ・平成24年の横浜、令和3年の熊本など年度後半の春に開催した事例はある。年度縛りがあるわけではない。

委員

- ・今回の基本構想案はよくできていると思う。
- ・山博との連携からも「つなぐ」ということが大事。全県的に人をつなぐ、空間をつなぐ、時間をつなぐ等、広がりのある形にしていきたい。
- ・観光の面から言えば、昨年の SAGA2024 は大変成功裡に終わって、その先につながる形にできた。今回の緑化フェアも同じような形にしたい。SAGA2024 でもそうだったが、人に知ってもらって、伝えて、考えて、日常的に市民、団体組織に活動してもらうことが、成功のカギだと思う。佐賀城下ひなまつりを毎年2～3月にやっているが、今年は「はなめぐり」がテーマだった。そういった既存イベントをつないで機運醸成への働きかけを行ってはどうか。
- ・「佐賀らしさ」が1つのキーワード。近年の緑化フェアのトレンド等もあるが、佐賀ではそれをどう位置付けPRできるかが大切。
- ・アクセスは、移動の部分を含めて全体の広がりと取組を更に整理して進めてほしい。

座長

- ・交通計画について、今あるものを活かし、民間の力を借りながら計画して欲しい。駅から会場に行くだけでなく、会場と会場をつなぐことも大事。
- ・佐賀らしさを探す。基本計画策定時などに、特に子どもたちに佐賀らしさを探してもらい、次の佐賀をどう見つけていくかという話につなげられると良いと思う。

委員

- ・生産者の立場として、開催時期が早い時期に分かれれば苗の生産や種の発注ができるため、なるべく早めに決めてほしい。
- ・緑化フェア開催時期だけでなく、フェア後も継続的に花壇やプランター等で花を使ってほしい。単なるイベントで終わらず、継続的にしてほしいというのが一つの思い。
- ・前回も話したが生産者が極端に少なくなっているので、発注すればすぐにできるというものではない。人を巻き込むという視点から考えると、小学校や幼稚園、保育園に種まきをお手伝いしてもらい、県内の農業高校や農業大学校に栽培管理をしてもらって生産してもらい等々の活動をしてはどうか。

座長

- ・どの緑化フェアでも子どもたちが学校で花を植える活動をしている。これが次につながると思う。
- ・緑化フェアはできあがったものを見てもらうという印象が強いが、作っている過程を見せてもいい。例えば、3つの会場それぞれで指定管理者も巻き込んで、小学生と一緒に花壇を作るなど。緑化フェアだけでなく、その後のまちづくりに活かされると良いと思う。
- ・教育機関と県土整備部など、行政の違うセクションでの連携が課題。公園や緑といったテーマは乗り越えやすいテーマであるため、庁内での体制づくりが大切。
- ・今から種まきを始めて、みんなで水を撒いて3年後に花開くような活動にしてはどうか。

委員

- ・とても良い開催趣旨だと思う。良い悪いではなく、県内向きメッセージが強いと感じた。緑化フェアの目的として佐賀県の魅力を県内外に届ける、来ていただけるようなフェアに、ということであればそういった表現を少し盛り込んでも良いのではないかな。
- ・個人的には、一過性のものにしない、我が事としてとらえるという意味では、まずは県民が足元の緑化や山について考える機会にした方が良いと思うので、今回提示された開催趣旨は大変賛同している。
- ・アドバイザーの話にもあった焼き物との連携について、例えば、会場の近くに県立美術館があるので、そこで鍋島焼や有田焼の名品を集めて、絵に描かれた植物を紹介するような展覧会をしたら、とても良いイベントになるのではないかな。
- ・唐津には他にないものがあるという話がでたが、いかに会場から唐津に運んでいくかを考える必要がある。山博とのコラボレーションにおいても、いかに人を回していくかがポイントとなる。公共交通が少ない中山間地域で県内外からのお客様をどう輸送していくかが課題である。
- ・スローツーリズムは佐賀県において重要なキーワードである。今までであるような物見遊山的なものではなく、体験などは海外の方にも関心が高まっているので、佐賀ならではのツアーが緑化フェアを機に準備できれば良いと思う。

座長

- ・公園と美術館は近いことが多いが、あまり連携をしていない。美術館で緑化フェアに絡めた展覧会を開催していただく等、例えばボタニカルアートなど考えても良いと思う。
- ・かわさきフェアでは、学生が体験を取り入れた企画をたくさん実施していた。体験をすることによって共感できることもあると思う。

委員

- ・会場が佐賀市中心だが、唐津や西の方にも会場があった方が、全県内の子ども達が参加しやすい。そうすることで、ただ行って体験するだけでなく、作る所から関わるができる。
- ・学校単位で、もしくは地域単位で子どもが緑化活動をする「緑の少年団」という制度がある。以前、緑の少年団の活動が全国5位に入選したことがある。咲いたヒマワリがとても映えるように学校周辺を毎日清掃した点が評価されたもの。緑化フェアでも花を植えるだけでなく、それを際立たせるための雑草を抜くという地道な活動も大事にしてほしい。
- ・子ども達を巻き込むためには、教育課程に組み込む必要がある。授業の内容は前年度に決めるので、早めに計画立案していただけると学校も取り組みやすい。

座長

- ・教育課程に組み込むのは必須条件と考える。そのためにも早めに計画を進めてほしい。全体の計画をまとめるのは時間がかかるので、花壇を子ども達と作るような時間を要する取組はブレ基本計画みたいなものを作り、先行して動いても良いと思う。
- ・草取りだけだと作業になるので、学びながら遊びながらやれると良い。風景づくりとして草取りは大事。緑化フェア期間中だけでなく、それ以降も大事にしてほしいと思う。

委員

- ・3事業の柱の「地域」は、「自発」の中に自発の地域づくりという内容が入っていて分かりにくい。「地域」を「価値」にしてはどうか。
- ・飲食関係計画において、カフェ巡りをされている若い人達も多いので、県内の素敵なカフェと緑化フェアをコラボすると周遊する人が増えるのではないかな。
- ・山との大切にする気持ちをフェアで感じたとして、生活の中で何をしたらよいかが見えづらい。佐賀県は淡水魚の種類が豊かで、野鳥もたくさんいる。そういった自然を守っていくために、自分が生活の中で何をしていくかの発信がなされるとよい。例えば、洗剤を選ぶ視点を変えとか、山を大切にするために行動に紐づけられるフェアになるとよい。
- ・子ども達を巻き込むのは大事だが、大人がやってほしいボランティアをさせてしまうという印象がある。子ども達の感動や継続につながるかという視点が大事。ボランティアの継続のモチベーションは喜んでいる人の顔が見えたとき。緑化フェアに参加して取り組んだことが、誰の笑顔につながったのか、見える形を子ども達に残せるとよい。
- ・いま全国では地域に開かれた福祉施設が増えている。フェアに参加できない人がいるという視点で考えると、例えば、福祉施設の中に子ども達が世話をする花壇があることで、普段接したことがない高齢者の方や障がい者の方が、自分が育てた花で笑顔になったみたいな活動ができると緑化フェアが終わっても継続できると思う。
- ・街中の花壇やイベント時の花壇は一年草が多く、宿根草を育てる機会がない。時間を掛けて宿根草を育てる機会を作ってはどうか。一時的に集中して花が必要という課題も改善されるのではないかな。

座長

- ・緑いっぱいのカフェなどを表彰する制度を作って、県民のモチベーションを上げてはどうか。みんなが喜んでくれる仕組が大事。
- ・宿根草花壇は3年程度で見栄えする花壇に成長する。今から子ども達を巻き込んでやってみてはどうか。また、プロと一緒に取り組んで、子ども達の成功体験につなげることが大事。自分たちが作った花壇が写真を撮られていると成功体験となる。そういった仕組づくりをしてほしい。

委員

- ・開催の2～3年前から機運を醸成していくことが大事。
- ・フェアに関連して、お菓子、焼き物、観光等、緑化フェアをきっかけに、「佐賀にまた来たい」と思ってもらえたら、佐賀全体も盛り上がっていく。
- ・自然と共生したような器やお箸を使ったり、お菓子やお土産を開発したりと商工業関係も協力していける。
- ・かつて水運であった佐賀のクリークがテレビで紹介されたことがある。佐賀に住んでいても知らないことが多い。緑化フェアを通じて、県内外の人が佐賀県の魅力を知るきっかけになれば良い。

座長

- ・花と音楽は垣根が無いと思っている。ぜひ商工会の皆さんにも働きかけてほしい。
- ・いろんなものが佐賀にはある。きっかけが非常に大事。緑化フェアが何かの起爆剤になると良い。

委員

- ・「つくり手」を増やしたいという委員のお話が印象に残った。そのため、コンセプトが非常に重要で、例えば「こどもたちとともに作り手をふやす」とシンプルにコンセプトのひとつに入れるとよいのではないかな。
- ・クリークを活かし物と人を運んでいた歴史は、佐賀の風景としてもう一度復活できると良い。
- ・水辺は風の通り道。草の手入れをしながら涼む、井戸端会議のような風景を、緑化フェア後も残せるとよい。
- ・最近はCCC (Cleanup & Coffee Club) という清掃活動の後にお茶をするという活動も流行っている。良いことをすると気持ちもよい。子どもたちの間でも流行っているので話題提供として。

座長

- ・子ども達が骨太に学び育つ体験とあるが、他人ごとに聞こえる。育てるという形にしてはどうか。
- ・クリークは農業に連動しているが、水運としても役立っていた。そういった活動が復活すると水を使うという方向性が見えてくるのではないかな。
- ・今回の懇談会で出た意見は緑化フェアだけでなく、今後のまちづくりや緑化の中で重要な概念だと思う。全ての意見が基本構想に反映できるわけではないと思うが、意見を見える形にしてほしい。

事務局

- ・今回の緑化フェアは、自然との共生について、自ら考えて行動をするきっかけにするフェアをしたいと思っている。
- ・頂いたご意見を踏まえて基本構想をまとめる。
- ・開催時期については、佐賀フェアの後にもまた次の緑化フェアが控えていることや、山博とセットで開催することを考えると、令和10年の春で考えている。

オブザーバー

- ・山博のイメージが前面に出ているが、全国都市緑化フェアの統一基本理念である「緑ゆたかなまちづくり」も基本構想で取り入れてほしい。
- ・全県をあげた開催は、2022年に北海道で開催された「ガーデンフェスタ北海道 2022」で恵庭市を中心にガーデンつながりで協賛を募って行った実績があるため、参考にしてほしい。
- ・一過性としめない取組では、令和3年に緑化フェアが開催された熊本市において、フェア後の毎年秋にまちの花と緑を身近に感じられることに関するイベントで「くまもと花博」の開催事例があるので参考にしていただきたい。

座長

- ・図やダイアグラム等を使い、分かりやすい基本構想を望む。
- ・コンセプトに関して、事業の4つの柱は意味が重複しているものもある。「地域」でも「人」でも人材育成の話があるなど、整理が必要。
- ・佐賀県はこれまでも指定管理を入れて公園整備をしっかりとやられてきており、集客も軌道に乗ってきている。この背景をしっかりと入れてほしい。それが今回の3公園を選んだ理由につながると思う。
- ・山博との共通項づくりが必要。山とまちの話だけでなく田園、海、クリークも佐賀の特長。佐賀は自然との共生がキーワードであり、SDGsにもつながる。
- ・つなぐ仕組が大事。自然と街をつなぐ、人と人をつなぐ。自然の中に環境と風景とがある。また、何をつなぐのか、子ども達とワークショップなどを考えていくこともできると思う。
- ・今回、沢山の意見をいただいた。基本構想にすべて使える訳ではないと思うが、一度意見を整理して、コンセプトを明確にした上でキーワードを考えてほしい。また、今回の意見が基本計画等で使えるようにしていただきたいと思う。